

飼い主のいない猫が増えることで起こる迷惑を減らすための陳情

(福祉健康委員会付託)

受理番号 第 82 号

受理年月日 平成 24 年 2 月 21 日

付託年月日 平成 24 年 2 月 23 日

陳情者 . . . . .  
. . . . .  
. . . . .

陳情原文 飼い主のいない猫(野良猫)のトラブルは社会問題になっています。糞尿問題、ゴミあさり問題、鳴き声問題等、様々な地域環境悪化を引き起こします。また、「猫を可哀そう」と思う住民と「猫は迷惑」と思う住民の間に軋轢が起こります。子どもたちが猫を巡っての大人同士の争いを見て、野良猫ならば排除し、虐待をしても許されると勘違いするようになるかも知れず、これは子どもの人間形成において非常に重大な問題と思われま

す。そもそも飼い主のいない猫はどうして増えるのでしょうか。それは、無責任な一部の飼い主により飼育放棄された猫が繁殖を繰り返したからにほかなりません。

そこで、動物愛護精神に基づいた解決方法として有効なのが飼い猫にも、飼い主のいない猫にも不妊・去勢手術を施すことです。

やむを得ないと言って、飼い主から引き取る猫や飼い主不明で引き取られる猫の70%から90%は、生後90日未満の子猫です。これは、不妊・去勢手術の不徹底が生み出した数字であり、やむを得ない理由ではないのです。行政の政策の遅れが、大きな起因となっているのです。1,000匹の子猫を不幸に生み出さないようにする為には、仮に1匹の雌猫が年間に出産する数を5匹×2回=10匹とするならば、1,000匹÷10匹=100匹。100匹の雌猫に不妊手術を施せば、捨てられたり、殺処分される1,000の命を産みださずに済むのです。不妊・去勢手術が捨て猫の防止、飼い主のいない猫の減少にいかにか有効か理解頂けると思

います。私たちは平成19年より江戸川区のボランティアセンターに登録し、1匹でも多く飼い主のいない猫や、高齢だったり、動物病院まで足を運ぶことのできない方の為に、低価格で一度に多数の手術を受け入れてくれる獣医師を探し、遠くて大変でも活動してきました。行政には、この区民の立場に立って真剣に対策を立ててくださるよう、長年願って参りました。この度、24年度から江戸川区が飼い主のいない猫対策事業として、飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費助成をすることを知り、大変喜ばしく思い、高く評価しております。

さてその中身ですが、誰でもが分かりやすく公平で、使いやすい制度にして頂けるようお願いいたします。不妊・去勢手術をお願いする獣医師を自由に選べることとし(獣医師会加入の有無に関わらず)、助成金額は手術費用の一部として、できる  
(裏面に続く)

だけ多くの飼い主のいない猫が不妊・去勢手術を受け、飼い主のいない猫が増えることで起こる迷惑を減らして頂けるよう、下記の通り陳情いたします。

#### 記

- 1 江戸川区の獣医師すべてを利用できることを求めます。(獣医師会加入の有無を問わない)
- 2 江戸川区の施策に協力を申し出る動物病院名のリストを公表し、区民が利用しやすくすることを求めます。
- 3 飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費助成は手術費の一部とし、予算内で多くの頭数が手術を施されることを求めます。